

Salvage of fetal karyotype information from SNP array data obtained from products of conception with maternal cell contamination

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-02-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 佐々木, かりん メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032091

様式 (6)

学 位 審 査

学 位 番 号	乙 第 2971 号	氏 名	佐々木 かりん
審 査 委 員 会	主 査 教 授	木林 和彦	
論文審査の要旨 (400 字以内)			
<p>産婦人科医療では流産絨毛からの胎児染色体核型の診断は流産原因の特定等のために重要である。しかし、絨毛検体には母体血が混入しており、胎児細胞が分離できない場合、従来の方法では母体血の混入のために胎児核型の診断が困難である。著者らは実験的に子供の DNA と母親の DNA が 0%から 10%ごとに 100%までの割合で含まれる混合試料を作成し、作成した混合試料について一塩基多型 single-nucleotide polymorphism(SNP)アレイを用いて DNA を解析し、得られた DNA 情報から子供の核型を診断する方法を開発した。また、母体血の混入のために従来法では胎児核型が判定不能であった流産絨毛 2 検体について、同様に SNP アレイを用いて母体血の混入率と胎児核型を診断した。本方法は今後の症例で有用性が検討され、産婦人科医療に用いられることが期待される。また、複数人の DNA が混在した混合試料の DNA 解析方法として移植医療や個人識別の分野での応用も可能と考えられる。</p>			
<p>本要旨は当該論文が第二次審査に合格した後の 1 週間以内に医学部学務課へご提出下さい。(本学学会雑誌に公表) [学校教育法学位規則第 8 条]</p>			